

科目（講座名）	現代文B		2単位	学校必履修
教科書	高等学校改訂版 現代文B（第一学習社）		担当教諭	
副教材	三訂版共通テスト対策現代文完答22（尚文出版）			

### 学習の目標

一、二年次の学習内容を踏まえ、より高度な現代文の学力を養う。主に現代評論に主眼を置き、現代社会のさまざまな問題点や考え方を知り、社会に対する認識を深めると同時に、論理的な思考力を身につける。また、文章の要約などの作業を通じて、言語による論理的な表現力を高める。併せて、その基礎となる語句や漢字、また文学史を学び、大学入試に対応できる総合的な学力を身につける。

### 授業内容

- ・現代評論の読解を教材の中心におき、論理的な分析・読解を行い、その内容を整理する要約を通して、論理的な読解力・表現力を身につける。
- ・小説・詩歌においては、近現代の時代背景に注目し、その心情の理解を通じて、現代の社会の問題に関連づけて考える。
- ・漢字・語句の学習は小テストの形で定期的実施する。
- ・近代以降の文学史を定期テストの試験範囲に組み込む。

### 学習方法

- ・予習の段階で、本文をじっくり読み、語句の意味調べなどしておく。
- ・集中して文章の読解に取り組み、現代評論などの論理的な文章の構造や主題、小説に描かれた状況や心情を把握する。
- ・ノートを必ず用意し、読解した内容を、自分の言葉で整理する。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで表現したり、理解したりしようとしたか。
話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手やその場の目的に応じ、筋道立てて話すことができたか。また、的確に聞き取ることができたか。
書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手やその場の目的に応じ、筋道立てて適切に文章として書くことができたか。
読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ることができたか。
知識・理解	実生活に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、その知識を身に付けられたか。

### 評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況、授業中の学習態度などをもとに総合的に判断し、評価を行う。年度末には、1年間の上記の内容について総合的に判断し、評価を行う。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 6	評論	写真の持つ力 未来世代への責任	<p>随想・評論：より抽象度の高い論理的な文章の読み方に習熟し、評論読解の基礎を確立する。また、社会の問題についての理解を深め、自分が主体的に考えていく姿勢を養う。</p> <p>小説：異なったスタイルの小説に触れ、慣用句や比喻等の修辞法による心情表現の読解力を高める。主題についての考察を通して、現代社会を見つめ直す。</p> <p>文学史：明治から大正期の文学史を扱う。</p>
	5		小説	檸檬 (中間考査)	
	6		評論	言語が見せる世界 いのちのかたち  (期末考査)	
2	9	2 8	評論	身体の個別性 リスク社会とは何か	<p>評論：一学期に習得した評論読解の方法論をより高度のものとし、さまざまな現代社会の問題に触れ、認識を深める。あわせて、大学入試に対応する学力を身につける。</p> <p>小説：近代の古典的な作品にも触れ、登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係についての関心を深める。また、日本近代のあり方や、戦争について考察する。</p> <p>文学史：大正から昭和期の文学史を扱う。</p>
	10		小説	舞姫 (中間考査)	
	11		評論	現代日本の開化	
	12		評論	「である」ことと「する」こと (期末考査)	
3	1	1 6	まとめ	演習	<p>いままでに学習した内容を踏まえて、大学入試問題等の演習を行う。</p>
	2				
	3				

<b>科目（講座名）</b>	<b>政治・経済</b>	<b>2単位</b>	<b>必履修</b>
教科書	高校 政治・経済（実教出版）	担当教諭	
副教材	なし		

### 学習の目標

民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する力を身につけることを目標とする。

### 授業内容

政治・経済・国際関係などに関する諸課題について学習する。公民的分野の、基礎的・基本的事項に関して学習する。

### 学習方法

板書を中心とした一斉授業形式をとり、必要に応じてプリント学習を併用する。また、随時演習ノートを使用する。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究するとともに、客観的に考えようとする態度を身につけている。
思考・判断	現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。
技能・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。

### 評価方法

前記の観点について、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	2 6	現代の政治	民主政治の基本原理  日本国憲法の基本的性格  日本の政治機構  現代日本の政治  現代の国際政治	基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える。  日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。  日本の国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習し、民主主義がどのように実現されているか理解し、他の国の制度とくらべて今後の課題は何か考える。  国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。
2	9 10 11 12	2 8	現代の経済	経済社会の変容  現代経済のしくみ  現代経済と福祉の向上  世界経済と日本	経済活動の特徴、資本主義経済の発達と変容、資本主義経済の特徴について学習し、経済活動の意義について考える。  経済主体の役割、市場のしくみ、国民所得、経済成長、金融のしくみ、財政の役割を学習し、経済活動がどのように調整されているか考える。  日本経済の発達のながれ、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割について学習し、さまざまな課題にどのように取り組むべきか考える。  商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。
3	1 2 3	1 6	現代社会の諸課題	人種・民族問題  核兵器と軍縮  国際経済格差の是正と国際協力	商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。  軍事力や力の政治によってのみでは、国際問題の最終的解決は不可能であり、国連をはじめとする多国間での協議の必要性が高まっていることを理解させる。

科目（講座名）	倫 理	2 単 位	必履修
教科書	高校倫理（東京書籍）	担当教諭	
副教材	テオリア 最新倫理資料集 新版二訂 （第一学習社）		

### 学習の目標

現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断の能力を育てることを目標とする。

### 授業内容

青年期の課題と、人間としての在り方生き方について、おもに古今東西の諸思想の学習をとおし、主体的な理解と思索を深める。

### 学習方法

板書を中心とした一斉授業形式をとりつつ、必要に応じてプリント学習を併用する。また、演習ノートを随時使用する。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。
思考・判断	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民としての広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。
技能・表現	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果をノートやレポートにまとめ、発表や討論などを通して適切に表現できる。
知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

### 評価方法

前記の観点について年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	26	青年期の課題と自己形成  人間としての自覚	青年期の意義  ギリシャ思想  キリスト教  イスラーム  仏教  中国の思想	人生における青年期の位置づけとその課題について考えさせる。 ソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの思想の基本内容を理解させる。 ユダヤ教、キリスト教の基本的な内容を理解させる。 イスラームの基本的な内容を理解させる 仏教の基本的な内容を理解させる。 孔子、孟子、荀子、老子、荘子の始祖の基本的な内容を理解させる。
2	9 10 11 12	28	国際社会に生きる日本人の自覚   現代を生きる人間の倫理	日本人のものの考え方  仏教と日本人の思想形成  儒教、国学思想と日本人の思想形成  西洋思想と日本人の近代化  人間の尊厳の根拠を求めて  民主社会と自由を求めて	日本人の人間観・自然観について考えさせる。 平安仏教、鎌倉仏教の考え方を理解させる。 林羅山、伊藤仁斎、荻生徂徠や本居宣長の基本的な考え方を理解させる。 日本の先人たちが西洋の近代思想をどのように受容したかを理解させる。 近代的な学問・真理探究の方法がいかに確立されたかを考えさせる。 経験論、合理論、功利主義、社会契約説、社会主義思想、実証主義の考え方を理解させる。
3	1 2 3	16	現代の課題を考える	生命、家族、地域社会、情報社会、環境	現代の課題を、家族の変化、女性の社会進出、高齢社会の到来などの観点から考えさせる。

コロナウィルスの影響・生徒の状況などにより変更することがある。

科目（講座名）	体 育	2 単位	必履修
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	担当教諭	
副教材			

### 学習の目標

- ①スポーツを通して、心身発達をうながし生涯を通して運動を実践する態度や習慣を身に付ける。
- ②自らが運動の必要性を理解し、計画・実施ができることを意識し、グループ学習させる。
- ③チーム作りを通して、話し合いの中で円滑な仲間との関係を作る。

### 授業内容

前期、後期で  
 バドミントン・バレーボール・バスケットボール  
 サッカー・ハンドボール・ソフトボール  
 卓球・テニス、基礎トレーニングから選択  
 ※施設の関係上、種目を変更することもある。

### 学習方法

- ①各自が自分自身の健康を意識し、運動を処方し、実践できることを意図する。
- ②グループ学習において、個人の技術から集団技術への展開を意識し計画的に活動できるようにする。チーム作りにおいて、集団の一員としての自覚を持ち、協力し、ゲームにおいて戦略・戦術を考え、作戦をたて、チームを作り上げていく。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	各種目の特性を理解し、互いに協力し、励まし合いながら練習や競技を行おうとする。勝敗に対して公正な態度がとれる。
思考・判断	自己の能力に応じた目標や課題を設定し、効果的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができる。
技能	チームや個々の能力に応じた課題の練習や、ゲームを通して、集団的・個人的技能を高めることができる。
知識・理解	各種目の特性や学習の進め方、練習や競技の仕方を理解している。競技の運営やルール・審判法を理解している。

### 評価方法

各担当が実技テスト点、出席点 授業点をつけ5段階評価する。  
 なお、授業参加状況、授業態度も評価の対象になる。  
 学年末は年間の成績を総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	バドミントン バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 テニス 基礎トレーニング から選択	体力づくり、巧緻性向上を目指す。	科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。
	5			基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。	各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。
	6			グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。	自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。
	7		水泳	泳法指導	安全の確保
2	9	28	バドミントン バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 テニス 基礎トレーニング から選択	泳法指導、タイム測定	安全の確保
	10			体力づくり、巧緻性向上を目指す。	科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。
	11			基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。	各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。
	12		グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。	自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。	
				作戦を立て、全員が協力してゲームを進められるようにする。	



3	1 2 3	16	<p>バドミントン バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 テニス 基礎トレーニング から選択</p>	<p>体力づくり、巧緻性向上を目指す。</p> <p>基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。</p> <p>グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。</p> <p>作戦を立て、全員が協力してゲームを進められるようにする。</p> <p>※体づくり運動 (年間を通して実施) ・柔軟性、巧緻性、筋力、持久力など基礎的体力の向上</p>	<p>科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。</p> <p>各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。</p> <p>自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。</p>
---	-------------	----	---	--	---

科目（講座名）	コミュニケーション英語Ⅲ	4単位	学校必履修
教科書	CROWN English CommunicationⅢ (三省堂)	担当教諭	
副教材	CROWN English CommunicationⅢ 予習サブノート、共通テスト英語読解トレーニング、共通テスト 10min. リスニング、CROSSBEAM S2 改訂版、英単語 Stock4500		

#### 学習の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

#### 授業内容

ア事物に関する紹介や報告，対話や討論などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。  
 イ説明，評論，物語，随筆などについて，速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また，聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。  
 ウ聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合うなどして結論をまとめる。  
 エ聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，まとまりのある文章を書く。

#### 学習方法

- ・予習で、文章を読む。分からない単語・語句の意味や発音を調べる。
- ・授業では、文→パラグラフ→全体→総合の手順を追って、読解を進める。
- ・復習として、再度文書を読み、要約やワークブックなどをして理解を深める。
- ・教科書と並行して補助教材を使用し、入試問題をはじめ数多くの英語長文問題に取り組む。

#### 評価の観点

関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち，英語を読む言語活動を積極的に行い，コミュニケーションを図ろうとする。 予習・復習を含めて、日々の学習をしっかりとこなす。
表現の能力	文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるように効果的に音読するなどして表現する。
理解の能力	さまざまなジャンルの英語を読んで，必要な情報や書き手の意向などを理解する。
言語や文化についての知識・理解	英語を読むことの学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。

#### 評価方法

中間・期末考査の成績、小テスト、授業へ取り組む姿勢、ワークなど課題の提出状況、出席状況などをもとに総合的に評価する。なお、年間の評価は、1学期・2学期・3学期の取り組みを総合的に判断する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	40	Lesson 1	スラッシュリーディング	意味のまとまりごとに区切って読む。
	5		Lesson 2 Lesson 3	未知語の推測 パラグラフ構成	前後関係から意味を推測する パラグラフを意識する。
	6		Lesson 4	主題文・支持文列挙	トピックセンテンスの内容の 具体的説明する文を意識する。 主題文を具体的に説明する場合 に使われる語句を意識する。
	7		Lesson 5	時間的順序①	内容を整理しながら読み進め る。 時系列を示す語句に注目する。
2	9	56	Lesson 6	比較・対照	複数の物事を比較・対照させて 述べる語句に注意する。
	10		Lesson 7 Lesson 8	原因結果 スキミング	原因・結果を表す語句に注意す る。 短時間で文章の全体像をつか む。
	11		Lesson 9	スキヤニング	わからない語句があっても気に せず、必要な情報を取り出す。
	12		Lesson 10	事実と意見	どこまでが事実でどこからが意 見なのか区別する。

3	1 2 3	2	Lesson 10	事実と意見	どこまでが事実でどこからが意見なのか区別する。
---	-------------	---	-----------	-------	-------------------------

科目（講座名）	<b>英語表現Ⅱ</b>	2単位	学校必履修
教科書	MY WAY Expression II	担当教諭	
副教材	Grammar Collection 英文法・語法問題集 Select Version 英文法語法 Vintage・Vintage Drive 全演習 Final Step		

#### 学習の目標

1. 英語の基本的な言語構造を総括的に理解し、大学入学共通テストレベルの問題に取り組める。
2. 英語の基本的な表現を用いて、表現したいことを伝えられる。
3. 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力をさらに伸ばす。

#### 授業内容

1. 1・2年次に英語表現Ⅰ・Ⅱで学んだ文法・語法の復習と応用的な内容を学習する。
2. 大学入学共通テストレベルの文法や読解に対応できるように演習問題に取り組む。

#### 学習方法

1. MY WAY English Expression IIを用いて、英作文・文法事項の定着を図る。
2. 副教材の「説明+ドリル」形式で、英文法・語法について十分な演習を行う。

#### 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をよく聞いて、理解しようと努めている。</li> <li>・礼儀と規律をもって、授業に臨んでいる。</li> <li>・課題をきちんと提出できる。</li> </ul>
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で情報や考えを的確に表現できる。</li> </ul>
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・小テスト・課題などに前向きに取り組み、成果をあげることができる。</li> </ul>
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該単元だけに限らず、英語の言語構造を、総合的に関連づけて、把握理解できる。</li> <li>・外国語と他の文化への関心を高めている。</li> </ul>

#### 評価方法

評価の観点を参考にし、1・2学期はそれぞれの学期成績を、3学期は通年の総合成績で評価する。（いずれも定期考査、小テスト、提出物授業への取り組み等をもとに総合的に評価する）

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習活動とその留意点
1	4	4	Lesson 1 Lesson 2	時制 時制 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～2年次に学習した文法事項の総復習なので、英語力の土台ができているかどうかを、例題や演習問題を通して確認する。理解があいまいな項目については、解説を読んだり、授業での説明を通して、確実な理解となるように心がける。</li> </ul>
	5	7	Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5	助動詞 助動詞 2 受動態	
	6	7	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8	自動詞＋不定詞 疑問詞＋不定詞 動名詞	
	7	6	Lesson 9 Lesson 10	不定詞と動名詞 分詞構文	
2	9	7	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13	比較 関係詞 仮定法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～2年次に学習した文法事項の総復習なので、英語力の土台ができているかどうかを、例題や演習問題を通して確認する。理解があいまいな項目については、解説を読んだり、授業での説明を通して、確実な理解となるように心がける。</li> </ul>
	10	7	Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16	話法、否定 代名詞 時間に関する表現	
	11	5	Lesson 17 Lesson 18	無生物主語 譲歩	
	12	5	Lesson 19 Lesson 20	結果・程度・目的 強調・同格	
3	1	4	Lesson 21	群動詞・群前置詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いままでに学習した内容を踏まえて、英作文などの問題演習や入試対策問題を行う。</li> </ul>
	2				
	3				

科目（講座名）	情報の演習		2単位	必履修
教科書	高校 社会と情報 改訂版（実教出版）		担当教諭	
副教材	60時間でエキスパート Word&Excel(実教出版)			

#### 学習の目標

実践的な情報活用能力を身に付ける

#### 授業内容

- ・ 実務的な教材により実社会での基礎的な知識と実践的な活用能力を身につける

#### 学習方法

- ・ 文書作成・表計算を用い、実務的な課題を行い、実践的な情報伝達や活用能力を身につけることで、情報処理について深く理解し、活用する能力を高める。

#### 評価の観点

関心・意欲・態度	欠席せず、課題に取り組み、その結果を提出する。
思考・判断	実務的な実習の課題に対して適切な処理方法をとれる。
表現・処理	情報伝達、検索、収集、実習等で課題の指示どおりにできる。 課題内容を処理した結果を適切な表現で行うことができる。
知識・理解	社会で用いている様々な用語や書式に関する知識や、各種ソフトウェアの活用方法について理解している。

#### 評価方法

考查及び授業中における実習課題の状況および各種提出物、授業態度や出欠状況等を、総合的に判断して評価・評定をつける。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	26	文書作成の基礎 知識	コミュニケーション ビジネスにおける文 書の必要性 簡潔化・正確化・ビジ ュアル化のコツ	各種コミュニケーションについて 重要なポイントを理解する。	
	5					
	6		ビジネス文書の 基本構成と種類	ビジネス文書の種類 文書の構成 文書の管理 社内文書・文書校正・ 社外文書・地図作成・ 表組・簡易 DTP		実社会で用いられている各種の文 書についての知識を得る。
	7					
2	9	28	表計算ソフトの 活用 ビジネスで求め られる各種処理	見積から納品まで 売上集計 経費集計 売上分析 複数店の集計 年間集計 出納帳 財務管理	実社会で用いられている各種帳票 を表計算ソフトで作成すること で、書類の意味や、ソフトの機能 を理解する。	
	10					
	11					
	12					
3	1	16	複数ソフトの活 用（文書処理・表 計算）	シート挿入 グラフ挿入 テキスト・表・図・グ ラフの貼り付け	文書作成・表計算の各ソフトを用 いて、総合的な実務課題をこなす ことで、総合的に活用する能力を 高める。	
	2					
	3					



科目（講座名）	現代文B（現代文演習）	2単位	必修選択
教科書	高等学校改訂版現代文B（第一学習社）	担当教諭	
副教材	過程の演習新国語問題集アシスト第2集現代文編（京都書房）		

### 学習の目標

一、二年次の学習内容を踏まえ、より高度な現代文の学力を養う。主に現代評論に主眼を置き、現代社会のさまざまな問題点や考え方を知り、社会に対する認識を深めると同時に、論理的な思考力を身につける。また、文章の要約などの作業を通じて、言語による論理的な表現力を高める。併せて、その基礎となる語句や漢字、また文学史を学び、大学入試に対応できる総合的な学力を身につける。

### 授業内容

- ・現代評論の読解を教材の中心におき、論理的な分析・読解を行い、その内容を整理する要約を通して、論理的な読解力・表現力を身につける。
- ・小説・詩歌においては、近現代の時代背景に注目し、その心情の理解を通じて、現代の社会の問題に関連づけて考える。

### 学習方法

- ・集中して文章の読解に取り組み、現代評論などの論理的な文章の構造や主題、小説に描かれた状況や心情を把握する。
- ・記述問題を中心に、簡単なものから難易度の高いものまで、レベルアップしながら、演習問題をこなしていく。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで表現したり、理解したりしようとしたか。
話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手やその場の目的に応じ、筋道立てて話すことができたか。また、的確に聞き取ることができたか。
書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手やその場の目的に応じ、筋道立てて適切に文章として書くことができたか。
読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ることができたか。
知識・理解	実生活に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、その知識を身に付けられたか。

### 評価方法

定期考査、出席状況、授業中の学習態度などをもとに総合的に判断し、評価を行う。  
年度末には、1年間の上記の内容について総合的に判断し、評価を行う。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	2 6	評論・小説 随筆・作文	演習問題を解く 課題作文を書く	<p>随想・評論： より抽象度の高い論理的な文章の読み方に習熟し、評論読解の基礎を確立する。また、社会の問題についての理解を深め、自分が主体的に考えていく姿勢を養う。</p> <p>小説： 新しい小説のスタイルに触れ、心情表現の読解力を高める。主題についての考察を通して、現代社会を見つめ直す。</p>
2	9 10 11 12	2 8	評論・小説 随筆・作文	演習問題を解く 課題作文を書く	<p>評論： 一学期に習得した評論読解の方法論をより高度のものとし、さまざまな現代社会の問題に触れ、認識を深める。あわせて、大学入試に対応する学力を身につける。</p> <p>小説： 近代の古典的な作品にも触れ、登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係についての関心を深める。また、日本近代のあり方や、戦争について考察する。</p>
3	1 2 3	1 6	まとめ	演習	<p>学習した内容を踏まえて、大学入試問題等の問題演習を行い、応用力を身につける。</p>

科目（講座名）	古典B（古文演習）	4単位	必修選択
教科書	古典B 古文編改訂版（大修館書店）	担当教諭	
副教材	過程の演習新国語問題集アシスト第2集古文編（京都書房） 三訂版共通テスト対策古文完答22（尚文出版）		

### 学習の目標

- ・ 古文を読む能力を養う。
- ・ 古文の作者のものの見方、感じ方、考え方を理解する。
- ・ 文法と単語の基礎を身に付け、さらに発展・応用する力をつける。
- ・ 文法力と語彙力を養い初出の古文が読める力をつけ、入試に対応できるようにする。

### 授業内容

- ・ 語句の意味、用法および文の構造を理解する。
- ・ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を理解する。
- ・ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。

### 学習方法

プリントによる一斉授業形式をとり、必要に応じて副教材を併用する。随時文法・単語の確認テストを行う。復習と演習を各自で行い、授業中の理解を習得につなげること。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	日本文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
話す・聞く能力	作品に対する自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取る。
書く能力	古文を読んで関心を持ったことなどについて調べ、文章にまとめることができる。
読む能力	文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえることができる。
知識・理解	古文に表れた思想や感情の特徴や、表現上の特色を理解することができる。また、辞書を用いて古文の言葉と現代の言葉とを比較対照できる。

### 評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	2 6	物語	堤中納言物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用の基本である用言を完全に理解し習得する。</li> <li>・歴史物語としての特色を味わい、登場人物の行動や心情をとらえさせる。また、人物や事件に対する作者の思いについて考えさせる。</li> <li>・助動詞の用法について理解し習得する。</li> <li>・日記文学の内容を、読み込まれた和歌とともに正確に読み取る。当時の人たちのものの見方や捉え方を味わい読解を深める。</li> <li>・敬語表現を理解し習得する。</li> <li>・枕草子の省略表現を理解する。</li> </ul>	
	5		歴史物語	大鏡  (中間考査)		
	6		日記	和泉式部日記 紫式部日記 十六夜日記 蜻蛉日記  (期末考査)		
	7		随筆	枕草子		
2	9	2 8	評論	古今和歌集仮名序 無名草紙 無名抄 源氏物語  (中間考査)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌論を読み、和歌のとらえ方を正しく読み取るとともに、和歌の修辞法を理解し、習得する。</li> <li>・源氏物語の微細な言語観を読み取って解釈する。また敬語を正しく理解し、人間関係の把握に結びつけ、読解鑑賞を深める。</li> <li>・センター問題に取り組み、自分の基礎力の達成度を知り、学習課題を把握する。</li> </ul>	
	10		物語			
	11		評論 演習			風姿花伝 センター問題  (期末考査)
	12					
3	1	1 6	まとめ	演習	大学入試問題等の演習を行い、応用力を身につける。	
	2					
	3					



科目（講座名）	古典B（漢文演習）	2単位	自由選択
教科書	古典B 漢文編改訂版（大修館書店）	担当教諭	
副教材	必携 新明説漢文（尚文出版） 必携 新明説漢文ノート（尚文出版） 共通テスト対策 古典完答22（尚文出版）		

### 学習の目標

- ・ 漢文を読む能力を養う。
- ・ 漢文特有のものの見方、感じ方、考え方を理解する。
- ・ 句法や語彙の読み方などを身に付け、さらに発展・応用する力をつける。
- ・ 句法と語彙力を養い初出の漢文が読める力をつけ、入試に対応できるようにする。

### 授業内容

- ・ 語句の意味、句法および文の構造を理解する。
- ・ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、もの見方、感じ方、考え方を理解する。
- ・ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。

### 学習方法

教科書・プリントによる一斉授業形式をとり、必要に応じて副教材を併用する。随時文法・単語の確認テストを行う。復習と演習を各自で行い、授業中の理解を習得につなげること。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	漢字文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
話す・聞く能力	作品に対する自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取る。
書く能力	漢文を読んで関心を持ったことなどについて調べ、文章にまとめることができる。
読む能力	文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえることができる。
知識・理解	漢文で表現された思想や感情の特徴、表現上の特色を理解することができる。また、辞書を用いて漢文の言葉と現代の言葉とを比較対照できる。

### 評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	漢詩	竹里館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩の決まりを完全に理解し習得する。</li> <li>・中国の散文に親しむ態度を養う。また、漢文としての特色を味わい、登場人物の行動や心情をとらえさせる。</li> <li>・人の本性に関する孟子・荀子・告子三者の立場の違いを整理し、各自の考えを深めさせる。</li> <li>・句法を理解し習得する。</li> </ul>
	5		文章	贈別 桃花源記  (中間考査)	
	6		思想	不忍人之心 人之性悪 性猶湍水也  (期末考査)	
	7				
2	9	28	史伝	呂不韋 荊軻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長文を正しく読解することができるようにする。</li> <li>・司馬遷の描く個人の伝記を読むことで、そこに示されている歴史観や人間観を知り、人生や運命について考えさせる。</li> <li>・大学入学共通テスト問題に取り組み、自分の基礎力の達成度を知り、学習課題を把握する。</li> </ul>
	10		思想	論語 孟子 (中間考査)	
	11		演習	大学入学共通テスト問題  (期末考査)	
	12				
3	1	16	まとめ	演習	大学入試問題等の演習を行い、応用力を身につける。
	2				
	3				

科目（講座名）	日本史演習	4 単位	必修選択
教科書	詳説日本史B 改訂版（山川出版社）	担当教諭	
副教材	最新日本史図表 四訂版(第一学習社)		

### 学習の目標

系統化された歴史学の知識を理解する過程で、生徒一人ひとりがそれぞれの歴史観を養い、より良い歴史の創造者となる手がかりをつかむことを目標とする。

### 授業内容

「第4章 中世社会の成立」から「第8章 幕藩体制の動揺」を扱う。  
 中世から近世・近現代へと展開する歴史の流れを、政治、文化、経済などの様々な観点から学習し、歴史への理解を深める。教科書だけでなく、写真や地図、史料を多く活用し、歴史的な事象を多面的・多角的にとらえる力を養うことを目指す。

### 学習方法

板書を行う講義形式。図表・史料を随時使用する。  
 大学入試問題を使用した演習プリントを適宜配布し、学習した基本事項などを確認するとともに、入試問題へ対応できる実践的な学力を養成する。  
 受験を意識し、資史料を重視した講義を行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	各時代の政治体制や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。授業や演習に対して意欲的に取り組んでいる。
思考・判断	中央集権や地方の支配体制の変遷や経済・文化の動向から課題を見出し、国内だけでなく東アジア世界との関係や地方の動向と関連づけて多面的・多角的に考察している。
技能・表現	政治権力の変遷や文化の特色に関する現物資料・文献などの史料を活用し、追究・考察した過程や結果を適切に身につけている。身につけた基本事項を議論や論述する場面で適切に活用している。
知識・理解	政治・経済・文化等についての基本的な事情を、国内・国外の事情を加味して多面的・多角的に理解し、その知識を身につけている。

### 評価方法

定期考査を基本に、平常点を加味し、上記の観点を総合して評価を行なう。



年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	52	第4章 中世社会の成立 院政と平氏の台頭	平安時代の地方社会 貴族文化の展開 院政と荘園公領制 ～平安末期の文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公領の変質や荘園の拡大、武士の台頭などに着目して、律令制の変質と摂関政治や院政の展開を理解させる。</li> <li>武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目させて、武家社会と公家社会の関わりや庶民文化の萌芽、地方への文化波及の様相を理解させる。</li> </ul>
	5		武士の社会	源平の争乱～鎌倉幕府の成立	
	6		第5章 武家社会の成長	室町幕府の成立  幕府の衰退と庶民の台頭	
	7			室町文化  戦国大名の登場	
2	9	56	第6章 幕藩体制の成立	織豊政権 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕藩体制の仕組みについて、幕府の組織、政権基盤、大名・朝廷・寺社・農民統制のあり方、鎖国政策を考察し、政治的、社会的な背景や役割と関連させて理解させる。</li> <li>・享保の改革から寛政の改革に至る幕府政治の移り変わりを理解させるとともに、その背景としての都市や農村における社会の変動に目を向けさせる。</li> </ul>
	10			幕藩体制の成立 幕藩体制の構造	
	11		第7章 幕藩体制の展開	幕政の安定 経済の発展 元禄文化	
	12		第8章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	
3	1	32	第8章 幕藩体制の動揺	幕府の衰退と近代への道 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村を基盤とする幕藩体制が動揺していく過程と、社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素が制されてきたことを理解させる。</li> </ul>
	2				
	3				

科目（講座名）	<b>世界史演習</b>	4 単位	必修選択
教科書	改訂版「詳説世界史B」（山川出版社）	担当教諭	
副教材	「最新世界史図説タペストリー」（帝国書院） 「詳説世界史整理ノート」（山川出版社）		

### 学習の目標

大学入試に対応出来る基礎学力を養成するとともに、演習を行う。

### 授業内容

講義・演習を中心に行う。過去問演習なども積極的に行う。

### 学習方法

授業中はプリントに内容を記録し、各自でノートにまとめる。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	歴史上の事件や人物について、教員の話をきちんと聞いている。 予習復習をおこなっている。 積極的な授業参加が見られる。
思考・判断	歴史上の地名・人物について思考をめぐらし、それらがどのように現代社会形成の要素となったかを理解している。 世界史的な事象に対し原因と結果に着目しその内実について正確な判断を下せる。
技能・表現	板書を「詳説世界史整理ノート」に記入している。
知識・理解	世界史を形成した事件や人物について十分な知識と理解をし、それらが現代社会を構成するもととなっていることを理解している。

### 評価方法

上記の観点について、定期考査及び平常点（提出物、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	第 11 章	欧米における近代国民 国家の発展	19 世紀後半～20 世紀初にかけての各 地域の復習と演習を行う。
	5	1 4	第 12 章	アジア諸地域の動揺	
	6	1 4			
	7	1 4	第 13 章	帝国主義とアジアの民 族運動	
2	9	1 2	第 14 章	二つの世界大戦	20 世紀の各地域の復習と演習を行う。
	10	1 6	第 15 章	冷戦と第三世界の独立	
	11	1 8	第 16 章	現在の世界	
	12	1 0		共通テスト対策	
3	1	3 2		志望校対策	全範囲の演習を行う。
	2				
	3				

<b>科目（講座名）</b>	<b>政治・経済</b>	<b>4単位</b>	<b>必修選択</b>
教科書	高校政治・経済（実教出版）	担当教諭	
副教材	なし		

1.

### 学習の目標

民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する力を身につけさせる。

### 授業内容

政治・経済・国際関係などに関する諸課題について学習する。公民的分野の基礎的・基本的事項に関して学習する。

### 学習方法

板書を中心とした一斉授業形式をとり、必要に応じてプリント学習を併用する。多様な角度から考察できるように、各種統計・資料を活用する。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究するとともに、客観的に考えようとする態度を身につけている。
思考・判断	現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。
技能・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。

### 評価方法

前記の観点について、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	5 2	現代の政治	民主政治の基本原理  日本国憲法の基本的性格  日本の政治機構  現代日本の政治  現代の国際政治	現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主主義の本質について把握させ、政治についての基本的な考え方を身につけさせる。  国際社会の変遷、人種、主権国家、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。
	9 10 11 12	5 6	現代の経済	経済社会の変容  現代経済のしくみ  現代経済と福祉の向上  世界経済と日本	経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。  貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。
3	1 2 3	3 2	現代社会の諸課題	少子高齢社会と社会保障  産業構造の変化と中小企業  農業と食糧問題  地球環境の保全と経済成長  人種・民族問題	少子高齢社会と社会保障、地域経済の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題などについて、政治と経済とを関連させて探求させる。  地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済関係格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割について、政治と経済とを関連させて探求させる。

科目（講座名）	<b>数学Ⅲ</b>		4単位 2単位	必修選択 自由選択
教科書	改訂版 高等学校数学Ⅲ（数研出版）		担当教諭	
副教材	改訂版 4プロセス 数学Ⅲ			

### 学習の目標

高等学校における数学教育のひとつの完結段階である数学Ⅲにおいては、数学的な見方や考え方の基盤が確立できるように、基礎概念の明確な理解と基本的な技能の習熟を図る。

また、それらの知識や技能を活用する能力を伸ばすとともに、高度な数学への関心を高め、思考・意識の広がりを認識できるようにすることを目標とする。

### 授業内容

高校2年生までに学習してきた内容を継承し、（1）複素数平面，（2）式と曲線，（3）関数（4）極限，（5）微分法，（6）微分法の応用，（7）積分法，（8）積分法の応用について学習する。

### 学習方法

予習→授業→復習の徹底，予習による疑問点のチェックは、授業の取り組みに対する意識を高めるとともに効果的な学習方法である。復習は基本的な技能の習熟には必須である。復習での問題演習により、基礎概念の明確な理解が深まるとともに、更なる思考の発展に繋がる。

予習，授業，復習の学習サイクルの徹底に努める。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、複素数平面、極限、微分法及び積分法における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとしたか。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。
表現・処理	数学的活動を通して、複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決することができるか。
知識・理解	数学的活動を通して、複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けたか。

### 評価方法

定期考査、出席状況、小テスト、課題提出等により、年間の成績を総合的に判断して評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	7 8	第2章式と曲線 第1節2次曲線	第2章 式と曲線 ・放物線・楕円・双曲線・2次曲線の平行移動 ・2次曲線と直線・2次曲線の性質 ・曲線の媒介変数表示・極座標と極方程式	焦点の座標などから、楕円・双曲線の方程式を求める。 2次曲線と直線の交点や2次曲線の接線の方程式を求める。 放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求める。 分数関数・無理関数の定義を理解し、グラフをかく。 無限数列・無限級数の定義を理解し、収束・発散を調べる。 簡単な関数の $x \rightarrow a$ 、 $x \rightarrow \pm \infty$ のときの極限を求める。 円や直線を極方程式で表す。 導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分する。 三角関数・対数関数・指数関数の導関数を理解し、導関数を計算できる。 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求める。 第2次導関数を利用して、関数のグラフをかく。
	5		第3章関数 第4章極限 第1節数列の極限 第2節関数の極限	第3章 関数 ・分数関数・無理関数・逆関数と合成関数 第4章 極限 ・数列の極限・無限等比数列・無限級数 ・関数の極限・三角関数と極限 ・関数の連続性	
	6		第5章微分法 第1節導関数 第2節いろいろな関数の導関数	第5章 微分法 ・微分係数と導関数・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数・第n次導関数 ・曲線の方程式と導関数	
	7		第6章微分法の応用 第1節導関数の応用 第2節いろいろな応用	第6章 微分法の応用 ・接線の方程式・平均値の定理 ・関数の値の変化・関数のグラフ ・方程式・不等式への応用 ・速度・加速度・近似式	
2	9	7 8	第7章積分法とその応用 第1節不定積分 第2節定積分	第7章 積分法とその応用 ・不定積分とその基本性質 ・置換積分法と部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分と基本性質 ・置換積分法と部分積分法 ・定積分のいろいろな問題 ・面積・体積・道のり・曲線の長さ	不定積分・定積分の定義や性質を利用して種々の関数の不定積分・定積分を計算できる。 定積分の置換積分法、部分積分法を利用して定積分を計算できる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で求める。 回転体の体積を求める方法を理解し、体積を求める。 極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表す。 ド・モアブルの定理を利用して、複素数のn乗を求める。 大学入試問題の考察により、受験に対応できるような力を身につける。
	10		第3節積分法の応用 第1章複素数平面	第1章 複素数平面 ・複素数平面・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理・複素数と図形	
	11		入試問題演習	入試問題演習	
	12				
3	1	5 4	まとめ	応用力養成	今までに学習した内容を生かして、応用力を養成する。
	2				
	3				





科目（講座名）	数学 I（数学 I 演習）	2 単位	必修選択
教科書	改訂版 高等学校 数学 I（数研出版）	担当教諭	
副教材	シニア 数学演習 I・A・II・B		

### 学習の目標

数学 I 及び数学 A の全分野について、基礎的な知識の確認と技能の習熟を図り、入試問題に対応した学力の習得を目指す。

### 授業内容

(1) 数と式	(ア) 式と計算	(イ) 実数
	(ウ) 1 次不等式	(エ) 集合と命題
(2) 2 次関数	(ア) 2 次関数とグラフ	(イ) 2 次関数の値の変化
	(ウ) 2 次方程式と 2 次不等式	
(3) 図形と計量	(ア) 三角比	(イ) 三角形への応用
(4) データの分析		

### 学習方法

前半は、教科書・副教材で復習・演習を行い、学習した事項を確認するとともに知識の定着をはかる。後半は、過去の入試問題の演習を中心に行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	数と式、2 次関数、図形と計量およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、数と式、2 次関数、図形と計量およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	数と式、2 次関数、図形と計量およびデータの分析において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
知識・理解	数と式、2 次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

### 評価方法

1. 年 4 回の定期考査
2. 毎時間の課題提出と小テスト
3. 出席状況、学習態度などを 年間を通して総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 6	第1章 数と式	第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第4節 集合と命題	基本事項を丁寧に確認する。  網羅的でなく、取り上げた問題を細部まで理解に努めさせる。
	5		第2章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	
	6	第3章 図形と方程式	第1節 三角比 第2節 三角比への応用	小テストを通じて定着をさせる。	
2	9	2 6	入試問題テーマ別演習	全範囲	実際の入試問題を教材とする。  難易度を上げず1学期の学習内容が生かせる問題を精選する。
	10				
	11		入試問題総合演習	1回～5回	徐々に難易度を上げて実際の入試に対応できる力を養う。
12					
3	1	1 8	個別指導	志望校過去入試問題	今までに学習してきた内容を踏まえて、問題演習を行う。
	2				
	3				

科目（講座名）	数学Ⅱ（数学Ⅱ演習）	2単位	自由選択
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ（数研出版）	担当教諭	
副教材	三訂版シニア数学演習ⅠAⅡB（受験編）		

### 学習の目標

式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分について、基礎的な知識の確認と技能の習熟を図り、入試問題に対応した学力の習得を目指す。

### 授業内容

第1章	方程式・式と証明	1節. 式と計算	2節. 等式・不等式の証明
第2章	複素数と方程式	1節. 複素数と2次方程式の解	2節. 高次方程式
第3章	図形と方程式	1節. 点と直線	2節. 円 3節. 軌跡と領域
第4章	三角関数	1節. 三角関数	2節. 加法定理
第5章	指数関数と対数関数	1節. 指数関数	2節. 対数関数
第6章	微分法と積分法	1節 微分係数と導関数	2節 関数の値の変化 3節 積分法

### 学習方法

前半は、教科書・副教材で問題を解説し学習事項を確認するとともに、小テストで内容の定着を行う。後半は、プリントで過去の入試問題の演習を行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分において、事象を数学的にとらえ、表現を処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
知識・理解	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

### 評価方法

1. 年4回の定期考査
2. 課題提出と小テスト
3. 出席状況、学習態度などを 年間を通して総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	第1章 式と証明	1節 式と計算 2節 等式・不等式の証明	基本事項を丁寧に確認する。
			第2章 複素数と方程式	1節 複素数と2次方程式の解 2節 高次方程式	
	5		第3章 図形と方程式	1節 点と直線 2節 円	小テストを通じて定着をさせる。
			第4章 三角関数	1節 三角関数 2節 加法定理	
	6		第5章 指数関数と対数関数	1節 指数関数 2節 対数関数	定期考査で授業で扱った問題を出題して達成感を持たせる。
			7	第6章 微分法と積分法	
2	9	入試問題テーマ別演習		式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法	実際の入試問題を教材とする。  難易度を上げず1学期の学習内容が活かせる問題を精選する。
			10		
	11			入試問題総合演習	1回～5回
			12		
3	1	18	まとめ	問題演習	過去の大学入試問題等を今までの学習を踏まえて実施し、応用力を身につける。
	2				
	3				

科目（講座名）	物理	4 単位	必修選択
教科書	物理 改訂版 （啓林館）	担当教諭	
副教材	リードα 物理基礎・物理 （数研出版）		

### 学習の目標

物理基礎での学習をもとに、実験・演習を通して自然現象を科学的に分析する能力を育成する。  
また、物理現象を数学的に記述する能力を育成し、物理現象の数学的規則性を理解させる。

### 授業内容

1. 力学(平面上の運動、運動量の保存、慣性力、円運動と万有引力)
2. 熱力学（気体運動論、内部エネルギー、熱サイクル、熱力学第二法則）
3. 波動学（波の性質、ドップラー効果、光学）
4. 電磁気学（電場、電流、電流と磁場、電磁誘導と交流理論、電磁波）
5. 原子物理学（光電効果、物質波、水素原子の第1ボーア半径）

### 学習方法

授業での物理現象に対する解説をよく考え、理解する。宿題を忘れずにやる。  
教科書の例題を理解し、問題演習をする。「リードα 物理基礎・物理」で、更に多くの問題演習を行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	物理に対する関心の高さや、授業に取り組む意欲・態度を観る。
科学的な見方・考え方	科学的な見方・考え方ができる。
表現・処理	自分の考えを科学的に表現できる。 自然現象を物理的に処理できる。
知識・理解	物理の正しい知識を身につけている。 物理の考え方を正しく理解している。

### 評価方法

定期考査の成績を中心に、日頃の授業態度、提出点などを加味して評価する。

## 年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	5 2	平面上の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次元の運動の速度・加速度</li> <li>色々な外力による運動</li> </ul>	物理基礎の基本事項を確認しながら、Newton力学の発展を学ぶ。
	5		円運動と万有引力	<ul style="list-style-type: none"> <li>等速円運動</li> <li>慣性力</li> <li>万有引力</li> <li>単振動</li> </ul>	等速円運動の速度・加速度・力について学ぶ。 万有引力の法則とケプラーの法則について理解する。
	6		運動量の保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動量と力積</li> <li>運動量保存則</li> <li>反発係数</li> </ul>	単振動の変位・速度・加速度について理解する。 運動量の概念を理解する。 運動量保存則を理解し、使えるようにする。
	7		熱力学	<ul style="list-style-type: none"> <li>気体分子運動論</li> <li>熱サイクルと熱力学第一法則</li> <li>波の伝わり方</li> </ul>	物理基礎の熱力学の内容を、より分子レベルで考える。 気体の状態変化を、熱力学第一法則によって理解させる。
2	9	5 6	波	<ul style="list-style-type: none"> <li>音</li> <li>光</li> <li>レンズ</li> </ul>	クーロンの法則を使えるようにする。
	10		電界と電位	<ul style="list-style-type: none"> <li>静電気力</li> <li>電場</li> <li>電位</li> <li>電場の中の物体</li> <li>コンデンサー</li> <li>オームの法則</li> </ul>	電界、電位の概念を理解する。 コンデンサーの性質について理解する。
	11		電流	<ul style="list-style-type: none"> <li>直流回路</li> <li>磁界</li> <li>電流のつくる磁界</li> <li>電流が磁界から受ける力</li> <li>ローレンツ力</li> <li>電磁誘導の法則</li> </ul>	オームの法則と自由電子の関係を学ぶ。 オームの法則の発展として、キルヒホッフの法則を回路網に適用する。
	12		電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> <li>磁界</li> <li>電流のつくる磁界</li> <li>電流が磁界から受ける力</li> <li>ローレンツ力</li> <li>電磁誘導の法則</li> <li>交流の発生</li> <li>インダクタンス</li> <li>交流回路</li> <li>電磁波</li> <li>電子と光</li> </ul>	磁界の性質、表し方を学ぶ。 電流と磁界の関係を理解する。 ローレンツ力の理解を深める。 電磁誘導の法則を理解し、実際の問題に応用する力を養う。
3	1	3 2	原子	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子と原子核</li> </ul>	素粒子世界における、粒子・波動の二重性を理解させる。
	2		まとめ	大学入試問題演習	学習した内容を踏まえて、応用力を身につける。

科目（講座名）	物理演習		2単位	自由選択
教科書	物理 改訂版（啓林館）			
副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版）			

### 学習の目標

物理の学習を基本に、自然現象を科学的に分析する能力を育成する。  
また、物理現象を数学的に記述する能力を育成し、物理現象の数学的規則性を理解させる。

### 授業内容

1. 力学(平面上の運動、運動量の保存、慣性力、円運動と万有引力)
2. 熱力学（気体運動論、内部エネルギー、熱サイクル、熱力学第二法則）
3. 電磁気学（電場、電流、電流と磁場、電磁誘導と交流理論、電磁波）
4. 原子物理学（光電効果、物質波）

### 学習方法

問題演習を通して物理現象に対する解説をよく考え、理解する。宿題を忘れずにやる。  
選択科目である物理の内容を「リードα物理基礎・物理」を使用して、更に多くの問題演習を行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	物理に対する関心の高さや、授業に取り組む意欲・態度を観る。
科学的な見方・考え方	科学的な見方・考え方ができる。
表現・処理	自分の考えを科学的に表現できる。 自然現象を物理的に処理できる。
知識・理解	物理の正しい知識を身につけている。 物理の考え方を正しく理解している。

### 評価方法

授業中の小テストを中心に、日頃の授業態度、提出点などを加味して評価する。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	平面上の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次元の運動の速度・加速度</li> <li>・ 色々な外力による運動</li> </ul>	物理の学習事項を確認しながら、演習を通して理解する。
	5		円運動と万有引力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 等速円運動</li> <li>・ 慣性力</li> <li>・ 万有引力</li> <li>・ 単振動</li> </ul>	等速円運動について学習する。 万有引力の法則とケプラーの法則について、問題演習を通して理解する。
	6		運動量の保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動量と力積</li> <li>・ 運動量保存則</li> <li>・ 反発係数</li> </ul>	単振動について、問題演習を通して理解する。 運動量保存則・反発係数について、実験を通して理解する。
	7		熱力学 波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気体分子運動論</li> <li>・ 熱サイクルと熱力学第一法則</li> <li>・ 波の伝わり方</li> </ul>	気体分子運動論について、問題演習を通して理解する。 圧力と体積の変化の様子を、それぞれの過程を確認しながら理解する。 物理基礎の学習事項を確認しつつ、波の性質を理解する。
2	9	28	波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音</li> <li>・ 光</li> <li>・ レンズ</li> </ul>	ドップラー効果について実験を通して理解する。
	10		電界と電位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静電気力</li> <li>・ 電場</li> <li>・ 電位</li> <li>・ 電場の中の物体</li> <li>・ コンデンサー</li> </ul>	光の干渉について、科学史も踏まえつつ演習をする。 クーロンの法則を確認し、電場・電位の概念について演習を通して理解する。
	11		電流 電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オームの法則</li> <li>・ 直流回路</li> <li>・ 磁界</li> <li>・ 電流のつくる磁界</li> <li>・ 電流が磁界から受ける力</li> </ul>	キルヒホッフの法則を回路網に適用する。 電流と磁界の関係について実験を通して理解する。
	12		電磁誘導 原子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローレンツ力</li> <li>・ 電磁誘導の法則</li> <li>・ 交流の発生</li> <li>・ 交流回路</li> <li>・ 電磁波</li> <li>・ 大学入試問題演習</li> <li>・ 電子と光</li> </ul>	ローレンツ力の問題演習を通し、力学分野との関連性を考える。 電磁誘導の法則を理解し、実際の問題に応用する力を養う。 RLC直列・並列の交流回路の性質を理解する。 交流の問題を解く。 これまでの分野に関する入試問題を解き、応用力をつける。 光の粒子性と不確定性原理について考察させる。
3	1	16	原子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子と原子核</li> </ul>	素粒子世界における、粒子・波動の二重性を理解させる。
	2		まとめ		
	3				



科目（講座名）	<b>発展化学</b>		4単位	必修選択
教科書	改訂化学（東京書籍）		担当教諭	
副教材	チェック&演習化学（数研出版） フォトサイエンス化学図録（数研出版）			

### 学習の目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

### 授業内容

「物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質」、「化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡」、「無機物質の性質や反応」、「有機化合物の性質や反応」、「高分子化合物の性質や反応」、について観察、実験などを通して探究し、理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。

### 学習方法

- ・教科書を通して、基本的な知識の定着をはかる。
- ・問題集により演習を行い、反復練習により、確かな学力を身につける。
- ・観察、実験、レポート作成を通して基本的な原理・法則を理解する。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ</li> <li>・授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行う</li> </ul>
科学的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容について科学的な捉え方ができる</li> <li>・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる</li> <li>・発展的な内容について思考を展開させられる</li> </ul>
表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である</li> <li>・実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ内容が関連付けて整理され定着している</li> <li>・知識を用いて発展的な応用ができる</li> </ul>

### 評価方法

定期考査及び平常点（提出物（ノート、レポート等）、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	7	物質の状態変化	物質の状態と粒子の熱運動、状態変化	物質の状態とその変化について、エネルギーとの関係に着目し、構成粒子の挙動から考察する。 一定量の気体について、体積、圧力、温度がある定数で関係づけられることを学習する。 物質が溶媒に溶解するしくみと溶解度を学習する。 化学反応に伴う熱の放出や吸収について、そのしくみや量的関係について学習する。 電池の基本的なしくみと電気分解について学習する。 反応の速さと反応物の濃度、圧力、温度との関係について学習する。
		7	気体の性質	気体の体積の変化 気体の状態方程式	
	5	6	固体の構造	結晶と化学結合	
		1 2	溶液の性質	溶解平衡と溶解度 希薄溶液の性質	
	6	7	化学反応と熱・光エネルギー	反応熱と熱化学方程式 光とエネルギー ヘスの法則	
7	7	7	化学反応と電気エネルギー	電気分解 電池	
	6	6	反応速度	反応の速さ 化学反応と触媒	
2	9	1 6	化学平衡	化学平衡とその移動 電離平衡	化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的関係の変化などについて学ぶ。 周期表と元素の性質を学んだ後、非金属元素の単体や化合物の性質を学ぶ。 典型金属元素の単体や化合物について、その性質や用途を学ぶ。 金属元素の多くが属する遷移元素の単体や化合物について、その性質や用途を学ぶ。 無機物質の特徴と、私達の生活における利用法を学ぶ。 有機化合物の基本的な化合物である炭化水素のうち鎖式炭化水素と脂環式炭化水素、酸素を含む有機化合物の構造と性質を学ぶ。
	10	1 0	非金属元素と周期表	周期表と元素の性質 水素と希ガス、酸素・硫黄、窒素・リン、炭素・ケイ素とその化合物	
		6	典型金属元素	アルカリ金属、2族元素、アルミニウム・亜鉛などとその化合物	
	11	8	遷移元素	遷移元素の特徴 金属イオンの分離と確認	
		4	生活と無機物質	金属の利用 セラミックス	
	12	6	脂肪族炭化水素、	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、	
		6	酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル	
3	1 2 3	3 2	芳香族化合物	芳香族炭化水素、酸素、窒素を含む芳香族化合物 医薬品、染料と洗剤	芳香族化合物の性質を学ぶ。医薬品などの有機化合物と生活との関わりを化学的な面から学ぶ。石油から人工的につくられた合成繊維やプラスチックの製法や構造、性質、用途などを学ぶ。天然高分子化合物とそれを構成している化合物の構造や性質について、化学的な面から学ぶ。単元を横断した総合的な演習を行う。
			高分子化合物	糖類とアミノ酸 高分子化合物の特徴	
		学習のまとめ	入試問題演習		

科目（講座名）	化学		2単位	必修選択
教科書	改訂化学（東京書籍）		担当教諭	
副教材	チェック&演習化学（数研出版） フォトサイエンス化学図録（数研出版）			

### 学習の目標

化学および化学基礎の各分野の学習項目について、知識の定着と理解の習熟を図り、入試問題に対応した学力の習得を目指す。

### 授業内容

「化学基礎の内容」、「物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質」、「化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡」、「無機物質の性質や反応」、「有機化合物の性質や反応」、「高分子化合物の性質や反応」、について問題演習を中心に理解を深める。

### 学習方法

教科書・副教材を用いた基本事項の確認・復習と、入試問題演習を中心に行う。  
分野ごとに小テストを行い、内容の定着を行う。適宜入試に必要な実験・レポート指導も行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ</li> <li>授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行う</li> </ul>
科学的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容について科学的な捉え方ができる</li> <li>授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる</li> <li>発展的な内容について思考を展開させられる</li> </ul>
表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である</li> <li>実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ内容が関連付けて整理され定着している</li> <li>知識を用いて発展的な応用ができる</li> </ul>

### 評価方法

定期考査及び平常点（提出物（ノート、レポート等）、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 6	化学基礎の復習	問題演習	各分野の学習項目について、知識の定着と理解の習熟を図る。 教科書レベルの基本的な問題に対応できる学力の定着を目指す。
	5		物質の状態変化	問題演習	
	6		気体の性質	中間考査	
			固体の構造	問題演習	
7	溶液の性質	期末考査			
2	9	2 8	化学反応と熱・光エネルギー	問題演習	実際の入試問題等を活用してより実戦的な問題演習を行う。 知識のレベルアップと理解の深化を図り、標準レベルの入試問題に対応できる学力の向上を目指す。 単元を横断して、総合的に考察できる力の習得を目指す。
	10		化学反応と電気エネルギー	問題演習	
	11		反応速度	中間考査	
			化学平衡	問題演習	
12	非金属元素と周期表 典型金属元素 遷移元素 生活と無機物質 脂肪族炭化水素、 芳香族化合物 生活と有機化合物 高分子化合物	期末考査			
3	1	1 6	学習のまとめ	1年間のまとめ	
	2				
	3				

科目（講座名）	生物	4単位	必修選択
教科書	改訂版 生物（数研出版）	担当教諭	
副教材	スクエア最新図説生物（第一学習社） リードα 生物基礎＋生物（数研出版）		

### 学習の目標

1. 生物基礎で学習した内容を基礎として、生物や生命現象の基本的な原理・原則の理解をさらに深めるとともに、観察・実験を通して科学的な自然観を育てる。
2. 生命現象を分子レベルでとらえるとともに、生物の進化と多様性、分類、環境との関わりについて理解を深めながら、科学的に探究する能力と態度を育てる。

### 授業内容

①細胞と分子 ②代謝 ③遺伝情報 ④生殖・発生 ⑤動物の反応 ⑥植物の反応 ⑦生態系  
⑧進化・系統  
の各分野について学ぶ。

### 学習方法

講義形式の授業を中心に、実験・実習を取り入れて行う。  
授業は教科書の内容を授業プリントで中心に、図説で補いながら進める。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。
科学的な見方・考え方	生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。
表現・処理	実験・観察の技能を習得するとともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
知識・理解	生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。

### 評価方法

定期考査における学習の到達度・理解度に加え、実験・観察や課題への取り組みにおける学習態度・意欲等を総合して評価を行う。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	具体的な指導目標
1	4	2 2	1編 生命現象と物質	1章 生体物質と細胞 2章 タンパク質と酵素 3章 細胞とタンパク質 4章 代謝とエネルギー	1 生体物質, 細胞の構造と機能, 2 タンパク質の構造, 酵素, 3 輸送, 情報伝達, 免疫, 細胞接着とタンパク質, 4 呼吸と発酵, 炭酸同化, 窒素同化について理解する。
	5	1 2	2編 遺伝子のはたらき	1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー	1DNAの複製のしくみ, 2 転写とスプライシング, 翻訳, 突然変異, 3 発現調節のしくみ, 4 遺伝子組換え, PCR法, 塩基配列決定法, 遺伝子導入などについて理解する。
	6	2 0	3編 生殖と発生	1章 有性生殖 2章 動物の発生	1 染色体, 減数分裂, 連鎖と組換え, 2 配偶子形成と受精, 発生の過程について理解する。 <b>【実験】</b> 光合成色素の分離 <b>【実験】</b> 遺伝子組換え実験
2	9			3章 発生のしくみ 4章 植物の発生	3 母性因子と体軸決定, 誘導と分化のしくみ, 調節遺伝子と形態形成, 4 被子植物の生殖と胚発生について理解する。
	10	2 4	4編 生物の環境応答	1章 動物の反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	1 ニューロン, 興奮の伝導と伝達, 受容器, 効果器の反応, 中枢神経系のはたらき, 2 動物の行動, 3 植物ホルモン, 種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。
	11	1 2	5編 生態と環境	1-2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産 4章 生態系と生物多様性	1-2 個体群, 個体群内の相互作用, 個体群間の相互作用, 生物群集と共存, 3 物質生産, エネルギーの流れ, 4 生物多様性について理解する。
	12	1 2	6編 生物の進化と系統	1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	1 生命の起源, 生物の変遷と地質時代, 人類の進化, 2 変異, 遺伝子頻度, 自然選択, 遺伝的浮動, 隔離, 分子進化, 3 生物の系統と分類について理解する。 <b>【実験】</b> ブタの脳と眼球の解剖
		6	学習のまとめ	問題演習	
3	1	3 2	学習のまとめ	問題演習	
	2				
	3				

科目（講座名）	<b>生物演習</b>		2 単位	自由選択
教科書	改訂版 生物・生物基礎（数研出版）		担当教諭	
副教材	スクエア最新図説生物（第一学習社） リードα 生物基礎＋生物（数研出版）			

### 学習の目標

生物の各分野の学習項目について、知識の定着と理解の習熟を図り、入試問題に対応した学力の習得を目指す。

### 授業内容

①細胞と分子 ②代謝 ③遺伝情報 ④生殖・発生 ⑤動物の反応 ⑥植物の反応 ⑦生態系  
⑧進化・系統について理解を深め、単元を横断した総合的な力を養う。

### 学習方法

教科書・副教材・プリントを用いた基本事項の確認と問題演習を行う。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。
科学的な見方・考え方	生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。
表現・処理	実験・観察の技能を習得するとともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
知識・理解	生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。

### 評価方法

定期考査における学習の到達度・理解度に加え、小テストや課題への取り組みにおける学習態度・意欲等を総合して評価を行う。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	具体的な指導目標
1	4	6	1編 生命現象と物質	1章 生体物質と細胞 2章 タンパク質と酵素 3章 細胞とタンパク質 4章 代謝とエネルギー	1 生体物質, 細胞の構造と機能, 2 タンパク質の構造, 酵素, 3 輸送, 情報伝達, 免疫, 細胞接着とタンパク質, 4 呼吸と発酵, 炭酸同化, 窒素同化について理解する。
	5	8	2編 遺伝子のはたらき	1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー	1 DNAの複製のしくみ, 2 転写とスプライシング, 翻訳, 突然変異, 3 発現調節のしくみ, 4 遺伝子組換え, PCR法, 塩基配列決定法, 遺伝子導入などについて理解する。
	6	8	3編 生殖と発生	1章 有性生殖 2章 動物の発生	1 染色体, 減数分裂, 連鎖と組換え, 2 配偶子形成と受精, 発生の過程について理解する。
	7				【実験】光合成色素の分離 【実験】遺伝子組換え実験
2	9		生物	3章 発生のしくみ 4章 植物の発生	3 母性因子と体軸決定, 誘導と分化のしくみ, 調節遺伝子と形態形成, 4 被子植物の生殖と胚発生について理解する。
	10	1 2	4編 生物の環境応答	1章 動物の反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	1 ニューロン, 興奮の伝導と伝達, 受容器, 効果器の反応, 中枢神経系のはたらき, 2 動物の行動, 3 植物ホルモン, 種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。
	11	6	5編 生態と環境	1-2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産 4章 生態系と生物多様性	1・2 個体群, 個体群内の相互作用, 個体群間の相互作用, 生物群集と共存, 3 物質生産, エネルギーの流れ, 4 生物多様性について理解する。
	12	6	6編 生物の進化と系統	1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	1 生命の起源, 生物の変遷と地質時代, 人類の進化, 2 変異, 遺伝子頻度, 自然選択, 遺伝的浮動, 隔離, 分子進化, 3 生物の系統と分類について理解する。
			3	学習のまとめ	問題演習
3	1	1 6	学習のまとめ	問題演習	
	2				
	3				



科目（講座名）	<b>スポーツⅡ</b>		2単位	必修選択
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）		担当教諭	
副教材				

### 学習の目標

- ①スポーツを通して、心身の発達を促し生涯を通して運動を実践する態度や習慣を身に付ける。
- ②自らが運動の必要性を理解し、計画・実施ができることを意識し、グループ学習させる。
- ③チーム作りを通して、話し合いの中で円滑な仲間との関係を作る。

### 授業内容

今まであまり体験したことのない生涯スポーツ、アダプテッドスポーツまたはより専門的な内容で取組競技スポーツといったスポーツ全般の中から、種目を決定、年間計画を立て、実施する。

※施設の関係上、種目を変更することもある。

### 学習方法

- ①各自が自分自身の健康を意識し、運動を処方し、実践できることを意図する。
- ②グループ学習において、個人の技術から集団技術への展開を意識し計画的に活動できるようにする。チーム作りにおいて、集団の一員としての自覚を持ち、協力し、ゲームにおいて戦略・戦術を考え、作戦をたて、チームを作り上げていく。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	各種目の特性を理解し、互いに協力し、励まし合いながら練習や競技を行おうとする。勝敗に対して公正な態度がとれる。
思考・判断	自己の能力に応じた目標や課題を設定し、効果的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができる。
技能	チームや個々の能力に応じた課題の練習や、ゲームを通して、集団的・個人的技能を高めることができる。
知識・理解	各種目の特性や学習の進め方、練習や競技の仕方を理解している。競技の運営やルール・審判法を理解している。

### 評価方法

各担当が実技テスト点、出席点 授業点をつけ5段階評価する。  
 なお、授業参加状況、授業態度も評価の対象になる。  
 学年末は年間の成績を総合的に判断し、評価する。

## 年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	年間種目の決定	種目選択	本授業の趣旨、内容を理解した上で種目を決定する。
	5		アルティメット 水球 インディアカ ユニバーサルホッケー ラクロス	体力づくり、巧緻性向上を目指す。  基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。	科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。
	6		ブラインドサッカー	グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。	各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。
	7		テニス バドミントン バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 等	作戦を立て、全員が協力してゲームを進められるようにする。	自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。
2	9	28	アルティメット 水球 インディアカ ユニバーサルホッケー ラクロス	体力づくり、巧緻性向上を目指す。  基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。	科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。
	10		ブラインドサッカー	グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。	各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。
	11		テニス バドミントン バレーボール	作戦を立て、全員が協力してゲームを進められるようにする。	自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。
	12		バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 等		

## 保健体育

3	1	16	アルティメット	<p>体力づくり、巧緻性向上を目指す。</p> <p>基礎技術の習得と基礎体力の向上を目指す。</p> <p>グループ学習において、ゲームを意識し、計画的に協力しながら戦術・戦略を考えていく。</p> <p>作戦を立て、全員が協力してゲームを進められるようにする。</p>	<p>科学的見地に基づいた、トレーニング方法の伝達など、専門的知識の向上も図る。</p> <p>各種目の特性を理解し、お互いに協力しながら活動させる。</p> <p>自己の能力やチームの特性に応じた課題を設定し、ゲームを通して個人的・集団的技能を高めていく。</p>
	2		インディアカ		
	3		ユニバーサルホッケー ラクロス  ブラインドサッカー  テニス バドミントン バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール ソフトボール 卓球 等		

# 高等学校令和5年度 教科芸術科目音楽Ⅱ 年間授業計画

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年A組～F組

教科担当者：

使用教科書：教育芸術社 MOUSA 2

使用教材：バイエル 保育用童謡

	指導内容	音楽Ⅱの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 学期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いがないか、適正な表現をしているかなどを個々の技術に応じて指導、成長具合によって評価する。	26

	指導内容	音楽Ⅱの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いがないか、適正な表現をしているかなどを個々の技術に応じて指導、成長具合によって評価する。	28
3 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いがないか、適正な表現をしているかなどを個々の技術に応じて指導、成長具合によって評価する。	16

高等学校 令和5年度(3学年用) 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教科: 教科 芸術 科目: 美術Ⅱ 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 B 組~ F 組

教科担当者:

使用教科書: ( 美術Ⅱ 38 光村 美Ⅱ303 )

教科 教科 芸術 の目標:

- 【知識及び技能】素材の特性を知り基本的な道具の使い方を生かした制作技能を身に着ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】対照素材の制作を通し発見した特性を生かし発展させ表現する力を身に着ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】作品制作を通し 美術の面白さを認識し美術と向き合い自己を高める力を身に着ける。

科目 美術Ⅱ の目標:

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている ・創造的な美術の制作をするために必要な技能を身に着け意図に応じて制作方法を創意工夫している	・造形的な美しさや表現の意図と創意工夫について考え発想や構想を練り美術の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている	・作品制作を通し 美術の伝統と文化に豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ 映	鑑 賞						
1 学 期	円の形独特の構図や構成を学習しそれを生かしたテーマを決め図案を考える。	・デザイン(飾り丸盆)円のデザイン ・線取りの効果の学習 ・参考作品の鑑賞		○		○	・円の形を生かした表現が出来ている ・テーマの独自性 ・アイデアスケッチの熟考度	○	○	○	4
	テーマに沿った主役や登場するもの、場所、季節、時代などを画面全体のバランスを考えながら配置する。	・画面全体のバランスを考えながら実物大の下書きを考える。	○	○		○	・主役や登場物や背景全体の構成力 ・独自性のある発想力	○	○	○	4
	紙やすりで飾り盆の縁のバリを取る。アクリルジェソで下塗りを行う下書きを丸盆に写す。	・飾り盆の縁のバリ取り下塗りを行い清書した下書きを写す。	○	○		○	・行っている作業の効果と意味を理解する。 ・丁寧に作業を積み重ねる。	○	○	○	2
	水彩絵の具での彩色を積み重ね深みを出す	・彩色	○	○		○	・画面全体の配色バランス	○	○	○	10
2 学 期	丸盆裏面の図案を考え、彩色する。完成した丸盆の表面につや出しニス塗る。	・飾り丸盆の裏面の制作 ・塗装	○	○		○	・おもて面を考慮した図案を考えている。 ・完成に向けて丁寧に作業を積み重ねている。 ・制作態度	○	○	○	4
	アートガラスの制作手順と効果を理解した図案を考える。ニードルで彩色する部分の黒塗料を削る。	・アートガラスのデザイン(白黒のバランスを考えた図案) ・参考作品鑑賞	○	○		○	・作業手順と効果を理解した図案を考えている ・画面全体の配色バランスが取れている	○	○	○	8
	ニードルで削り終えた白黒のガラス裏面に透明水彩絵の具で薄く彩色する。	・アートガラスの彩色	○	○		○	・作業手順と効果を理解し丁寧に作業している。	○	○	○	10
3 学 期	学習した木彫の彫り方を組み合わせた額縁の図案を考える。	・木彫(アートガラスの額縁制作) ・彫刻刀での彫り ・額縁の組み立て	○	○		○	・作品完成に向け全体のバランスを考えながら作業している。 ・額縁の限られた形を生かした木彫の図案を考えている ・制作態度	○	○	○	2
										合計	44

科目（講座名）	総合英語（英語演習）	2単位	必修選択
教科書	なし	担当教諭	
副教材	Cutting Edge Green 大学入試長文読解問題集 リスニングトライアル ver.3 国公立大・私大入試 対策		

### 学習の目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

### 授業内容

長文読解問題集とリスニング問題集をテキストとし、演習形式で授業を行う。

### 学習方法

- ・ 読解問題は、予習として演習問題に取り組み準備する。
- ・ リスニング問題は授業内に解答する。
- ・ 授業で扱った題材について、復習に取り組む。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題をしっかりとこなし、期日に提出できる。</li> <li>・ 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語らしい発音で発話することができる。</li> <li>・ 教科書の内容に基づいて、情報や考えなどについて、書いたり話したりできる。</li> </ul>
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師やパートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。</li> <li>・ 定期考査・小テスト等に前向きに取り組み、良い成績をあげることができる。</li> </ul>
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストに書かれた内容を通して、世界の諸問題に触れ、理解を深められる。</li> </ul>

### 評価方法

上記、評価の観点を参考にし、1、2学期は、それぞれの学期成績を、3学期は通年の総合成績で、評価する。（いずれも、絶対・相対を加味した5段階評価）

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	Chapter 1	環境「食事とCO2」	文章の内容を考えながら黙読し、音読することができるようになる。 まとまりのある文章の概要や要点を読み取ることができるようになる。  まとまりのある文章をできるだけ多く、速く読み取ることができるようになる。  読んだ内容について、その概要や要点を書くことができる。 書こうとする内容を整理して、大事なことを落とさないように書くことができる。  短い英文を聞き、直接述べられない内容を推測して答える。 短い英文を聞き、その内容を適切に言い換えた英文を選ぶ。 短い会話を聞き、会話の流れをつかんで適切な応答を選ぶ。 名称や位置表現に注意して道順を聞き取り、地図上の場所を正確に把握する。 長めの会話を聞き取り、「誰が」「どこで」「何をしたか」の情報を整理する。 短めの英文から、必要な情報を聞き取って整理する。 長めの会話を聞き、数字表現に注意しながら会話の要点を把握する。 順序表現に注意し、指示された通りにイラストを並べ替える。 与えられた表の数字やキーワードを手掛かりに情報を聞き取り、整理する。
			Chapter 2	健康「必要水分量」	
			Chapter 3	言語「英語の変遷」	
			Chapter 4	科学「トランスヒューマン」	
	5	6	Chapter 5	動物「絶滅危惧種の選定」	
			Chapter 6	エッセイ「嘘も方便」	
	6	8	Chapter 7	進化論「火の制御とその効果」	
			Chapter 8	社会「老人ホームへの贈り物」	
			Chapter 9	経済「生活賃金」	
	7		TRIAL 1	短い英文の聞き取り①	
			TRIAL 2	短い英文の聞き取り②	
			TRIAL 3	短い会話の聞き取り	
			TRIAL 4	地図の読み取り	
			TRIAL 5	長い会話の聞き取り①	
			TRIAL 6	英文の要旨把握①	
			TRIAL 7	長い会話の聞き取り②	
TRIAL 8			イラストの整理		
TRIAL 9			表の整理		



2	9	6	Chapter 10	国際「アフリカのブランド商品」	<p>文章の内容を考えながら黙読し、音読することができるようになる。</p> <p>まとまりのある文章の概要や要点を読み取ることができるようになる。</p> <p>まとまりのある文章をできるだけ多く、速く読み取ることができるようになる。</p> <p>読んだ内容について、その概要や要点を書くことができる。</p> <p>書こうとする内容を整理して、大事なことを落とさないように書くことができる。</p>
			Chapter 11	自然「サンゴ礁」	
			Chapter 12	動物「緑色の血液」	
			Chapter 13	歴史「文明の隆盛」	
			Chapter 14	科学「豪華客船の沈没」	
			Chapter 15	教育「教育と報酬」	
	10	4	Chapter 16	技術「自動運転車」	
			Chapter 17	睡眠「睡眠の常識」	
	11	6	Chapter 18	心理「幸福感」	
	12	2			
			TRIAL 10	英文の要旨把握②	
TRIAL 11			スピーチの聞き取り①	話者の体験談を聞き、出来事や場面展開を把握する。	
TRIAL 12			長い会話の聞き取り③	長めの会話の流れをつかみながら、物の位置を中心に聞き取る。	
TRIAL 13			英文の要旨把握③	長めの説明文を聞き、説明の目的や話の要点を把握する。	
TRIAL 14			ニュースや説明文の聞き取り①	ニュースや説明文を聞き、話の要点を把握する。	
TRIAL 15			人物についての話の聞き取り	ある人物についての長めの説明文を聞き、人物像や実績を理解する。	
TRIAL 16			インタビューの聞き取り	質問文とその返答に注意しながら、インタビューの要点を把握する。	
		TRIAL 17	メニュー表の読み取り	メニュー表を見ながら、条件に合う料理を選んだり、金額の計算をしたりする。	
		TRIAL 18	ニュースや説明文の聞き取り②	社会的な話題についてのニュースを聞き、要点を把握する。	
3	1				
	2				
	3				

科目（講座名）	子どもの発達と保育	2単位	必修選択
教科書	子どもの発達と保育（実教出版）	担当教諭	
副教材			

### 学習の目標

子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

### 授業内容

- ①一斉授業により、子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識を学ぶ。
- ②実習により各種保育技術を身につける。
- ③保育園実習を通して子どもの発達と保育について総合的に学ぶ。
- ④現代の保育事情についてテーマを決め、発表をする。
- ⑤新型コロナウイルス感染症の状況により授業内容を変更することがある。

### 学習方法

一斉授業の他、保育に関する実習（離乳食・入浴・児童文化財製作）を通して実践的に学ぶ。  
保育園実習を通して子どもの保育について総合的に学ぶ。

### 評価の観点

関心・意欲・態度	・子どもの身体的・精神的発達や保育に関して、関心をもち、それらを意欲的に学ぶ姿勢が見られる。保育にかかわる職業に対して関心を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がみられる。
思考・判断	・子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け、子どもの発達、行動、感情、生活などについての理解を深めることができる。子どもを取り巻く問題について推測・考察ができる。
知識・理解	・子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。
技能・表現	・子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、保育に関する実習において保育技術を身につけ、保育実習等で総合的に保育技術が発揮できる。

### 評価方法

子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識が習得できたか。  
保育技術の基礎が習得できたか。  
子どもの発達や子育てに関して興味関心があるか。  
児童文化財製作や保育園実習が意欲的に取り組み、実習レポートとして状況報告ができるか。  
現代の保育に関する問題点について興味関心を持ち、自ら調べて課題や未来への展望などの意見が発表できるか。などを総合的に評価する。  
以上のことを、定期考査、製作作品、レポートを総合的に判断し評価を行う。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	1 2	0. オリエンテーション 1. 子どもの発達の特徴 ① 発達と乳幼児期の意義 ② 発達と保育環境 ③ 児童観と発達観	以下のことを中心に学習する。 ・人間の発達・乳幼児期の重要性について。 ・乳幼児期の保育者とのかかわりの重要性。 ・児童観・発達観が変化していること。 ・胎児の発育、生命誕生に関わる母体環境。 ・乳幼児の身体発育の特徴と傾向。 ・乳幼児の生理的特徴、養護の重要性。 ・発育の評価方法、乳幼児期の発育の個人差。 ・発達における方向性や順序性の共通性。 ・精神発達の特徴。 ・保育者からの働きかけと環境作りの重要性。 ・「愛着」の重要性と相互作用。 ・人間関係の広がり、自立し社会的な態度。 ・「第一反抗期」と「自我」について。 ・子どもの問題行動と家庭環境との関わり。	現代の保育に関する問題点について自ら考え、発表にそなえる。 保育技術を習得する ・計測 ・だっこ ・おんぶ ・入浴 ・乳幼児との接し方
	5	1 4			
	6	7			
2	9	1 4	3. 子どもの生活 ①生活と養護 ②子どもの遊び ③生活習慣の形成 ④健康管理と事故防止 4. 子どもの保育 ① 保育の意義と重要性 ② 家庭保育と集団保育 ③保育の方法	・乳幼児の食生活…母乳栄養や離乳食。 ・乳幼児の衣服や寝具…身体的特徴との関連。 ・乳幼児の発達と遊び、保育者はたらきかけ。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣、しつけ。 ・日常の健康状態、病気の特徴や定期健康診査、予防接種について。 ・乳幼児の成長段階における事故と原因。 ・子どもにとって望ましい環境とは ・家庭保育と集団保育の特徴や役割。 ・幼稚園と保育所・認定こども園について。 ・リトミックについて ・集団保育の実習を通して、乳幼児の生活や行動などを観察し、適切な関わり方を身につける。	保育実習 ・保育園等での実習 ・リトミック実習 ・離乳食 ・児童文化財製作
	10	1 4			
	11	1 4			
	12	1 4			
3	1 2 3	1 6	5. 子どもの福祉 ①子どもの福祉 ②子育て支援	・児童福祉の理念や法律、制度について。 ・児童相談所などの児童福祉機関や施設について。 ・児童を取り巻く環境の変化や子育て支援の現状。 ・子育て支援の課題と展望。	現代の保育に関する問題点についてまとめ、発表する